

会 議 録

会議の名称	第 5 回 子どもが輝く学校の未来構想検討委員会
開催日時	令和 7 年 5 月 3 0 日（金）
	1 3 時 0 0 分 開会 1 4 時 0 0 分 閉会
開催場所	斑鳩町役場 3 階 第 1 会議室
議長等の氏名	委員長 安井 義和
	副委員長 森下 暁
出席者（委員）の氏名	吉川 健、井上 卓也、富井 孝則、清水 俊匡、小村 尚己、 橋口 里子、坂本 恵美、浦林 潔、臼井 貴則、竹谷 公秀、 下村 知子、遠山 健
欠席者（委員）の氏名	田中 和則
事務局職員職 氏名	山本 雅章（教育長） 本庄 徳光（教育委員会事務局教育次長） 仲村 佳真（教育委員会事務局総務課長） 藤村 保夫（教育委員会事務局総務課学校教育指導主事） 小西麻里奈（教育委員会事務局総務課主事）
議題	（1）斑鳩町立学校の適正規模及び適正配置等に係る方針について （答申素案）について
会議結果	・ 審議事項（1）について、事務局から説明 答申素案について、本日の委員会での意見に基づき修正を行うとともに、あらためて各委員で内容の確認を行い、意見の提出機会を設けたうえで、次回の委員会において、答申案の審議を行うこととなった。
会議資料	・ 次第 ・ 資料 1 2 斑鳩町立学校の適正規模及び適正配置等に係る方針について（答申素案）について ・ 参考資料 町立小・中学校各学年別平均児童生徒数アンケート結果クロス集計表
議事の経過	
発言者	発言の要旨

事務局	(検討委員会の成立について) 総委員数 15 名のうち、14 名の委員が出席のため、斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会設置条例第 6 条第 2 項により当検討委員会が成立します。 (資料確認 (次第、資料 12、参考資料))
安井委員長	(会議録署名委員として、浦林委員、臼井委員を指名) 審議事項に入る前に、前回の委員会で、A 委員、B 委員から、ご意見がありましたアンケート調査結果のうち、各学校・各学年の 1 学級あたりの児童生徒数と、「現状より少ない方がよい」という回答の回答率について、また、「1 学年あたり 4 学級以上がよい」という回答の回答率との関係性について、事務局において、資料を作成いただいておりますので、その説明をお願いします。
事務局	(参考資料に基づき説明)
安井委員長	どうもありがとうございました。事務局の説明について、ご意見やご質問などはございますか。A 委員いかがですか。
A 委員	ありがとうございます。前回の委員会で、この資料の作成をお願いしたのですが、安井委員長がおっしゃっていた通りの推測が、この資料で裏付けられたことが確認できました。
安井委員長	私の方からも、補足的な説明をさせていただきます。 事務局の説明に関連して、図表を使って説明したものです。 斑鳩小学校の 3 年生のデータですが、横軸が 1 学級あたりの児童数で、赤いデータポイントが 34 人前後を示しています。 縦軸は「現状より少ない方がよい」と回答した割合で、約 60% に達しています。 次に、黄色のデータポイントで示しているのが、斑鳩西小学校の 4 年生です。こちらも 30 人を超えており、同様の傾向が見られま

	す。 さらに、斑鳩東小学校の５年生も同様の位置にあります。 全体的に、１学級あたりの児童数が３０人を超えると、「少ない方がよい」との回答率が高くなる傾向が見られます。 統計的な相関係数を計算したところ、０．６７という結果が出ており、かなり強い相関性があるといえます。 次に、中学校のデータをご覧ください。 赤いデータポイントは斑鳩南中学校のデータで、特に１年生のクラスでは１学級あたり４１人程度となっており、「少ない方がよい」との回答が７０％を超えています。 このように、児童生徒数が多い学年ほど「少人数が望ましい」との回答が多く、相関係数は０．７０と非常に高い値となっています。 ただし、データ数は６つと少ないため、あくまで参考としてご覧いただければと思います。 この件につきまして、ご意見・ご質問がないようであれば、審議事項に移りたいと思います。 斑鳩町立学校の適正規模及び適正配置等に係る方針について（答申素案）について、事務局の方から、説明をお願いします。
事務局	（資料１２に基づき説明）
安井委員長	説明ありがとうございました。非常に重要な内容であり、また時間も限られているため、すぐにご意見を出すのは難しいかもしれません。 今の段階で、この項目が追加すべきではないかなどの意見があれば、お伺いしたいと思います。 なお、本日は、この案を決定する場ではありません。一定の期間をお取りして、皆さんからご意見をいただく流れとしたいと思います。 この文章の意味が分かりにくいといったご質問からでも構いませんので、何かあればお願いします。
A委員	文言の修正をお願いしたい箇所があります。１２ページの５行

	目、「３２％と最も多いことから」とありますが、この表現だと「アンケート結果のみに従ってこの結論を出した」と受け取られかねません。 「最も多いことを参照し、様々な議論を踏まえて」などといった表現にしておかなければ、例えば「５０％以上の回答があった項目は必ず実現しなければならない」といった誤解を招く恐れがありますので、表現の工夫が必要だと思います。
安井委員長	ご意見ありがとうございます。確かにその通りかと思います。
C委員	一定の学級数を維持できるということで、小・中学校の配置や規模について、現状を維持していくという方向性は良いと思います。 現在、国は、中学校について３５人学級への移行を検討されているなか、４ページの標準学級数の記述に関して、現行の国の基準の４０人学級として計算されているようにも思えることから、注釈を加えるなど、もう少しわかりやすいようにしたら良いと思います。
事務局	ご意見ありがとうございます。中学校の３５人学級については、現在、文部科学省と財務省の間で合意がなされているという報道はありますが、まだ法案として成立していないため、現時点では確定事項とは言えません。 なお、斑鳩町では独自に３５人学級を採用していますので、斑鳩町独自の学級編制基準に基づき、算出している旨記載しています。
安井委員長	１３ページをご覧ください。５０年後の建て替えを見据える、とありますが、現時点で５０年後の姿を明確に描くのは非常に難しいと思います。 教育の形もオンライン授業などが導入され、変わっていく中で、将来像を決定するのは慎重であるべきだと考えています。 ある意味では、私たちが、将来のことを今の段階で決定すべきではないと考えています。 「２０年後を見据えて」という表現も、あくまで目標としての方向性であり、現時点では改築、長寿命化に大きく舵を切ったという

A委員	ことになります。 建て替えを実施すれば見た目も新しくなり、分かりやすい変化があるかもしれません。 ただし、当然ながら財政的な負担も大きくなりますので、その点も慎重に考慮する必要があると思います。 国において地方創生 2. 0 が今年の 3 月に発表され、公的施設の集約に対する除却費用についても、国からの財政的な支援措置が講じられるようになったと理解しています。 そうした背景を踏まえると、学校の中にさまざまな公共施設を取り込むといった形での活用も、今後の検討課題として盛り込んでよいのではないかと考えています。 たとえば、今回の答申をもとに、今後、議会や庁内で議論が進められることになると思いますが、町全体の公共施設の在り方を考える上でも、施設の集約化は避けて通れないテーマだと思います。 その集約先として学校を活用することができれば、子どもたちにとっても、安全面への配慮は必要ですが、良い環境になるのではないかと感じています。 将来的な視点として、そうした方向性についても答申の中に触れていただけるとありがたいと思います。
事務局	その点につきましては、私どもとしても非常に重要なポイントであると認識しております。 12 ページの「配慮事項（1）」の最後の段落にて、学校づくりの一環としてコミュニティ・スクールが導入されており、各学校においては、児童生徒の放課後の居場所や活動の場、地域防災の拠点、さらには地域の活動や交流の拠点としての役割を担うことが望ましいと記載しております。 これは、アンケート結果の中でも上位に挙げた意見を反映したものであり、答申の中に盛り込んでおります。 なお、「公共施設の集約」という表現までは明記しておりませんが、学校が地域のコミュニティの核として多機能な役割を果たすという趣旨については、この「配慮事項」の中でしっかりと記載させ

森下副委員長	ていただいております。 改築ではなく長寿命化を選択することについて、私なりの考えをお話しさせていただきます。 資料の１３ページにも記載がありますが、将来の見通しを立てるのが非常に困難であるということが実情です。 そういったことから、現時点では、長寿命化を前提とした対応が現実的であると結論づけたところです。 ただし、長寿命化についても、答えありきではなく、教育の在り方そのものをどう考えるかという視点が重要だと思います。 今後の人口動態の変化なども踏まえながら、柔軟に対応していく必要があると考えています。 また、先ほども話題に出ました「複合化」や「施設の集約化」は、今後、さらに検討が必要なテーマだと思います。学校というのは地域の中でも最も親しまれている施設の１つであり、「学校に行けば何かがある」という安心感を持たれている方も多いと思います。 もちろん、学校施設の管理という観点からは課題もあり、教育委員会、学校にご苦勞をおかけすることになりますが、今後の方向性として、そうした複合的な機能を持たせることも視野に入れて検討していくべきだと感じています。 これは、こういった施設を複合化するのかすぐに決定できることではありませんが、ぜひ今後、整備計画を具体化される際に、検討いただければと思います。
D委員	先ほどからの皆様のご意見を伺っている中で、今回の答申案にも記載されているように、やはり長寿命化という観点は非常に重要だと感じています。 長寿命化に関しては、学校施設環境改善交付金の対象にもなっており、現在もその制度が活用されている状況です。 したがって、今後はこの長寿命化を中心に進めていくというのが、ある意味で現実的かつ経営的な判断ではないかと考えています。 また、最近では時代のニーズに応じて複合化も注目されており、

安井委員長	文部科学省としても、単に長寿命化を行うだけでは交付金の補助率が3分の1にとどまるのに対し、複合化を取り入れることで交付率が引き上げられるといった措置も講じられています。 そうした点から見ても、今回の答申案の方針は、時代の流れに即した内容になっていると感じました。 先ほども申し上げましたが、本日はあくまで意見交換の場であり、答申案の締め切りという意味ではありません。皆さまからのご意見は、2週間後の6月13日（金）を目途にいただければと考えております。 斑鳩町の将来、そして子どもたちの未来を見据えて、ぜひさまざまな視点からご検討いただければと思います。 事務局からは、何かありますでしょうか。
事務局	繰り返しとなりますが、今回の答申素案につきまして、内容をご確認いただき、修正やご意見がございましたら、2週間後の6月13日（金）までに、事務局までご提出いただけますようお願いいたします。 その際には、本日お配りした資料に直接ご記入いただく形でも構いませんし、修正内容をメールでお送りいただいても結構です。 いずれの場合も、口頭ではなく、書面またはメールにてご提出いただきますよう、ご協力をお願いいたします。 また、次回の会議は7月1日（火）13時から、本日と同じ会場で開催を予定しております。 正式なご案内は、改めてお送りいたします。
安井委員長	先ほど、事務局から説明がありましたが、皆さまとの共通理解を図るためにも、今後のご連絡は、できる限りメールなどの文面でお願いできればと思っております。 口頭でのやり取りでは、どうしても情報の行き違いが生じる可能性がありますので、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。 それでは、これで、第5回の検討委員会を閉会致します。

※会議資料添付

上記のとおり議事録を作成し、相違ないことを証明する。

令和 年 月 日

議長等

署名人

署名人